

令和 8 年度

教育委員会事務事業点検・評価報告書

(令和 7 年度分)

大江町教育委員会

目 次

I	大江町教育委員会事務事業の点検評価について	P1
	1. 制度の概要及び目的	
	2. 点検・評価の対象事業	
	3. 点検・評価の方法	
	4. 学識経験者の知見の活用	
II	教育委員会等の活動状況	P3
	1. 教育委員会の開催	
	2. 教育委員会協議会の開催	
	3. 会議以外の活動	
III	外部評価委員の意見	P5
IV	施策の体系（大江町教育振興計画）	P9
V	点検・評価調書一覧	P10
	【事務事業別点検・評価調書】	

I 大江町教育委員会事務事業の点検評価について

1 制度の概要及び目的

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）され、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について自ら点検・評価をおこない、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

また、この点検・評価をおこなうにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされております。

この法律改正を受け、大江町教育委員会では、効果的、効率的で開かれた教育行政の推進に資するため、平成 22 年度より前年度の事務事業について、3 名の外部評価委員（大江町教育事務評価委員）の方々の意見をいただきながら点検・評価を実施しています。

大江町教育委員会では、令和 2 年 9 月に「自己実現と共生をめざす 心豊かな人づくり」を理念とした大江町教育プラン（第 3 次大江町教育振興計画）を策定し、「共生教育の充実と生涯学習の推進」を基本目標に、「未来を切り拓く力を育む学校教育の推進」、「つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進」、「ふるさとの文化に親しみ、郷土への誇りと愛着を育む教育・文化活動の推進」、「健やかな体と豊かな心を育む教育・スポーツ活動の推進」という 4 つの分野別目標を掲げ、相互に連携しながら各種教育施策の推進に努めております。

今回は、令和 7 年度におこなった主要な事務事業について点検・評価を実施するものです。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価をおこない、その結果に対する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価をおこなうに当っては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検・評価の対象事業

点検・評価は、令和 7 年度において教育委員会が所管し実施した主要な事業（25 事業）を対象として選定しました。

3. 点検・評価の方法

各事業について、「必要性」・「効率性」及び「有効性」の観点から分析評価したうえで、今後の方向性として、「拡充」・「継続」・「縮小」・「見直し」及び「休廃止」に区分し、点検・評価を行い「事務事業点検・評価調書」としてまとめております。

4. 学識経験者の知見の活用

教育委員会がおこなった点検・評価について、その客観性を確保するため、3 名の学

識経験者を外部評価委員（大江町教育事務評価委員）として委嘱し、点検・評価の内容についてご意見をいただくこととしています。

◇大江町教育事務評価委員

富 樫 雅 人、 若 月 寿 浩 、 鈴 木 広 子

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員会の開催

開催日	議案番号	件名
5月28日	1	大江町ふるさと奨学金貸与条例の一部を改正する条例の制定について
	2	令和7年度大江町教育費予算（令和7年度一般会計補正予算（第1号））に対する意見の申出について
6月23日	3	大江町の小中学校のあり方基本方針(案)について
8月14日	4	大江町ふるさと奨学金貸与条例の一部を改正する規則の制定について
	5	令和8年度使用教科用図書の採択について
8月27日	6	財産の取得について
	7	令和7年度大江町一般会計補正予算（第2号）に対する意見の申出について
	8	令和6年度大江町一般会計歳入歳出決算の認定に対する意見の申出について
	9	令和7年度大江町教育事務事業点検・評価報告書（令和6年度分）について
	10	大江町教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について
	11	大江町小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
11月27日	12	令和7年度大江町教育費予算（令和7年年度一般会計補正予算（第3号））に対する意見の申出について
12月19日	13	大江町立学校における県費負担職員の懲戒処分の内申について
2月12日	14	第4次大江町教育振興計画について
	15	大江町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
2月24日	16	令和7年度大江町教育費予算（令和7年度一般会計補正予算（第7号））に対する意見の申出について
	17	令和8年度大江町教育費予算（令和8年度一般会計予算）に対する意見の申出について
	18	大江町自治公民館整備費補助金交付規程の一部改正について
3月5日	19	令和7年度大江町立小中学校教職員人事異動内申について
	20	令和6年度大江町教育委員会表彰について
	21	小学校統合準備委員会提言について
3月26日	22	令和7年度大江町立小中学校教職員人事異動内申について
	23	令和6年度大江町教育委員会表彰について
	24	小学校統合準備委員会提言について

2 教育委員会協議会の開催

開催回数 2回（4月17日、9月25日）

内 容 教育長報告及び今後の日程などについて

3 会議以外の活動

(1) 学校訪問（令和7年度）

実施日	実施校	実施日	実施校
6月26日	本郷東小学校	7月4日	左沢小学校
7月8日	大江中学校	7月8日	藤田の丘分校

(2) 大江町総合教育会議の開催

日時 12月19日 午後3時～

内容 (1) 大江町教育振興計画について

(3) その他の主な活動

- 4月 8日 大江町小中学校入学式
- 28日 山形県縦断駅伝競走大会（大江町中継所通過）
- 5月28日 大江町小中高PTA連絡協議会総会
- 10日 ぷくらすカレッジ開講式・オープニング講座
- 24日 本郷東小学校運動会
- 25日 町民ソフトボール大会（中止）
- 31日 左沢小学校運動会
- 6月 1日 あじさい手づくり工芸まつり
- 22日 舟唄健康マラソン大会
- 7月 3日 西村山市町教育委員会連絡協議会総会・研修会
- 8月14日 大江町二十歳祝賀式
- 10月12日 ふらばーるバレー大会
- 24日～26日 大江町文化祭
- 30日 大江中学校躍動祭
- 11月 9日 西村山地区駅伝競走大会
- 21日 大江町小中高PTA連絡協議会秋の研修協議会
- 12月19日 大江町総合教育会議
- 1月25日 町民つなひき大会
- 3月14日 大江中学校卒業式
- 15日 ひなまつりコンサート
- 18日 町内小学校卒業式

Ⅲ 外部評価委員の意見（令和7年度事業分）

1 教育委員会活動等全般について

- (1) 大江町が一番！と感じられる町であってほしい。そのためにも子どもたちが、ふるさとである大江町に誇りを持ち、将来も関わり続けたいと思えるような教育の充実がとても大切であり、継続して取り組んで欲しい。併せて、学校教育だけでなく、共生郷育という目標のもと自分自身の生きがいを見つけることができる環境作りに期待したい。
- (2) 急速なデジタル化への対応、教員の多忙化と人材不足、要支援児童生徒への対応と不登校対策、拡大する教育格差、小学校の統合や義務教育学校の開校に向けた取り組み等、教育委員会が対応すべき業務は急激に増加し、多様化している中で着実に事業を実施していることは評価できる。しかしながら、教育委員会事務局の職員数は最小限に抑えられており、1人の職員が複数の過重な専門業務を兼任せざるを得ない状況にあるのではないかと危惧している。
- (3) 熱中症対策としての夏バスの運行や左沢高校への一歩踏み込んだ支援事業、町独自の奨学金制度の更なる拡充、そして学習支援ソフトの導入に向けた取り組み等、よりよい教育の創出のために鋭意努力されてきたことがわかる教育事務事業内容となっていることを評価したい。子どもたちは大江町の学校で学べて幸せを感じるであろうし、大人たちは学校を支える教育委員会に安心感を覚えているのではないかと思う。

2 学校教育全般について

- (1) 学習内容や地域との関わりだけでなく、子どもたちが安全で安心して学べる施設環境の整備も重要であると感じる。校舎や設備の老朽化への対応、暑さ寒さへの対策、防災面での安全確保、ICT環境の充実など、時代に合った教育環境を整えていくことが、子どもたちの学びの質を高めることにつながると感じている。限られた財源の中では優先順位を考えながら進める必要があるが、児童生徒や教職員の声を丁寧に聞き、現場の実情に即した整備を今後も期待したい。
- (2) 端末のハードウェア整備やネットワークの構築が一段落した後は、各種学習ソフトの導入が個別最適な学びを保障する上で必須とされている。また、家庭学習の習慣づけや一人ひとりの理解度に応じた学びを進めるうえで有効であり、今後も学習支援ソフトの整備については積極的に活用していくことが大事になってくる。かつて「パソコンはソフトがなければただの箱」と言われたが、状況は今も変わらない。今後も有用・有効なソフトを導入し、システムに「命」を吹き込んで、子どもたちの学びを向上させてもらいたい。
一方で、子どもたちがスマホやタブレットなどの画面に触れる時間が長くなりすぎないように配慮することも大切だと感じる。読書や外遊び、家族との会話、地域での体験活動など、デジタル機器から離れて過ごす時間も、子どもたちの健やかな成長には欠かせない。便利な学習支援アプリを上手に活用しながら、心身の健康や生活習慣とのバランスにも十分配慮した取り組みを期待したい。

- (3) 「NRT学力検査やQ-Uアンケートによる現状把握が指導の方向性を示す重要な役割を果たす」との指摘通りで、知能検査を含めたこれらの検査は担任が学級経営の大本とする基礎資料である。また、いじめや不登校、その他の問題をいち早く掴むことができ支援に繋がるため今後も継続して欲しい。
- (4) 校舎の老朽化は避けては通れない道だが、そこで児童生徒と教職員が生活する限り、安全確保を確実に努めることが教育委員会の務めなのだと思う。エアコンの更新を計画的に取り組んでいるが、危険な暑さから子どもたちを守る上で欠かせない取組だと考える。
- (5) 大江町独自の取組である夏バスの運行も、危険な暑さから子どもたちを守るためのものだということが広く理解されていると思う。バスの降車場やルートの変更など細かく調整されているが、バス運行を軌道に乗せるためにも必要なことである。引き続き丁寧な対応を継続して欲しい。
- (6) 就学支援については、古くからある事業で目立たないが、誰でもが良質な教育を受けられる環境を整えることこそが、教育委員会の本質的な役割である。しっかりとした就学支援を行って、地域のすべての子どもたちが安心して学べる環境を整えてきたと言える。今後も、関係機関との連携を密にして、「誰一人取り残さない教育」に徹してもらいたい。子どもたちの確かな未来のために。
- (7) 「教職員のヘルスケアの取り組みが、業務多忙により低調」というのは、切実な課題である。つまりは、抜本的な働き方改革になっていないことの証左だからだ。教職員自身の健康維持が、結果的に質の高い教育を提供するとの意識改革が必要である。50人以上の学校で義務付けられている「衛生委員会」での取り組みを参考にするのも一つの方法だが、教職員を本気にさせる取り組みが必要ではないか。
- (8) XやInstagramで町内の学校給食が紹介されているが、栄養のバランスがとられたうえでの彩り豊かな献立が素晴らしい。質・量ともに伸び盛りの子どもたちに応える申し分のない学校給食になっていると思う。加えて、「ふるさと給食」や「季節の献立」、「絆献立」といった取組からは、関係者の食育に関する誠実な意欲を感じ取れるのである。このことから、大江の子どもたちはつくづく幸せだと思う。給食が学校に来る楽しみの一つになっているのではないかな。
- 今後も、交流給食などの事業を通して、生産者が身近にいて、関わりを持つことにより自分ごととして捉えられ、食べ物を大切に、感謝の気持ちがより大きく養われることを期待している。
- (9) 左沢高校支援事業については、学習アプリの導入や商品券の配付など、次の一手を次々に紡ぎ出す実践的スキルには感服するばかりである。何と言っても、東北芸術工科大学と大江町、左沢高校の3者連携協定が結ばれたことは大きい。協定に基づく今後の取組に期待するとともに、PTA総会や学校説明会でのPRにもふんだんに魅力を詰められ、入学者の増加に結びつくのではないかな。左沢高校や小中学校との連携の取り組みや交流の場を更に増やすことができれば、より身近な場所として進路の選択肢に繋がるのではないかなと思う。
- 今後も、広報や新聞、SNSなどの活用でより多くの方々に情報発信を続け、活性化に繋げていきたい。

- (10) 大江町ふるさと奨学金事業は、経済的な理由で進学できない生徒を一人も出さない、そんな教育に対する想い、未来につなげる想い、教育に対する姿勢が滲み出る施策である。令和7年度からスタートした奨学金返還支援制度とあわせた取り組みは、「ずっと住みたい町」が実現する基盤事業であろう。
- (11) 学習生活支援員1人が1人の子どもに対応するだけで、1時間の授業はもちろん、1日の学級経営が大きく変わってくるものである。なり手がいない中、人員を確保するのは容易ではないと思うが、「学校を救う」つもりでどうにか配置の継続を願いたい。

3 社会教育・歴史文化活動について

- (1) 生涯学習推進事業については、とても魅力あり素晴らしい取り組みと感じる。一方で仕事・家庭・地域の役割が重なる現役世代にとって、生涯学習事業は「参加したくても参加できない」状況が生じる。子供や高齢者中心に設計されており、現役世代も参加しやすい取り組みが必要と感じる。
- (2) 芸術文化事業や文化的景観の推進については、関わりのない町民（その分野になじみのない町民）から興味を持ってもらったり、理解を深めてもらうことが事業を継続していくうえで大変重要と感じる。今後そのような取り組みも進めて欲しい。
- (3) 読書推進の取り組みについては、蔵書管理システムの電子化等、利用者の利便性向上のための環境整備に努めたと思う。定期的な図書館だよりの発行の他、図書館祭りを実施し、図書の利用促進をめざして丁寧に情報提供されていると思う。さらに、利用者の増加をめざすには、「社会全体で取り組む機運を高めていく」必要がある。学校・家庭・図書館が読書好きな子どもの育成へと方向を一にするようなキャンペーンを実施してはどうか。あるいは図書館祭りの時に、学校が連動して何か取り組むとかできないものか。
- (4) バルカロール・プラス：カンパニー代表と中学生が、YBCラジオに出演されているのを偶然耳にした。組織の立ち上げや第1回目の演奏会のPRだったと思われるが、何か事を始める時には、熱量の多い運動を展開しないと、周囲の人々を動かせないことを教えていただいたように思う。今、注目のバルカロールを文化祭に加えると、参加者が少し落ちてきているのを挽回できるのではないか。
- (5) 「生き物キッズラボ」の参加者が前年度より倍増していて喜ばしい。さらに、夏休み中の冒険・体験教室の充実に期待したい。オニヤンマやセミの孵化観察やクワガタムシやカブトムシの採集、あるいは浅い川でのカジカ捕まえなど、少年の心をくすぐるような教室が実施できるといい。最近の子供会活動が低調ならば、この体験教室の価値がいよいよ高まるのではないか。
- (6) 青少年育成事業として、観光大使プロジェクトの実施によりボランティアサークルの学生が町内の飲食店スポットなどを取材して魅力を発信していく取り組みはとても良いアイデアだと思う。若い世代を巻き込み、地域を盛り上げる取り組みとして今後も継続していただきたい。

- (7) 左沢楯山城跡の弓矢作成と楯山散策を、自然の家と協力して実施したのを快く受け止めたい。一つ目は、教育委員会の業務肥大化解消のためである。二つ目は、民間の力を借りると魅力的な体験的活動の開発（極端かもしれないが、例えばバーチャル体験）が期待できるからである。文化庁が主張している文化財の活用にも当てはまるのではないかな。
- (8) 「青苧御膳」や「青苧もち」などの人気の伝統食があり、それを提供できる人材がいるということとはありがたいことであり、強みでもある。「伝統食のつどい」と「雪中田植え」をつなげて実施したように、集客能力の高いイベントに何かを結び付けて波及効果をねらうということも必要と感ずる。
- (9) 町の文化財について、広報紙などで定期的に紹介し周知していくのも必要ではないかな。

4 スポーツ振興活動全般について

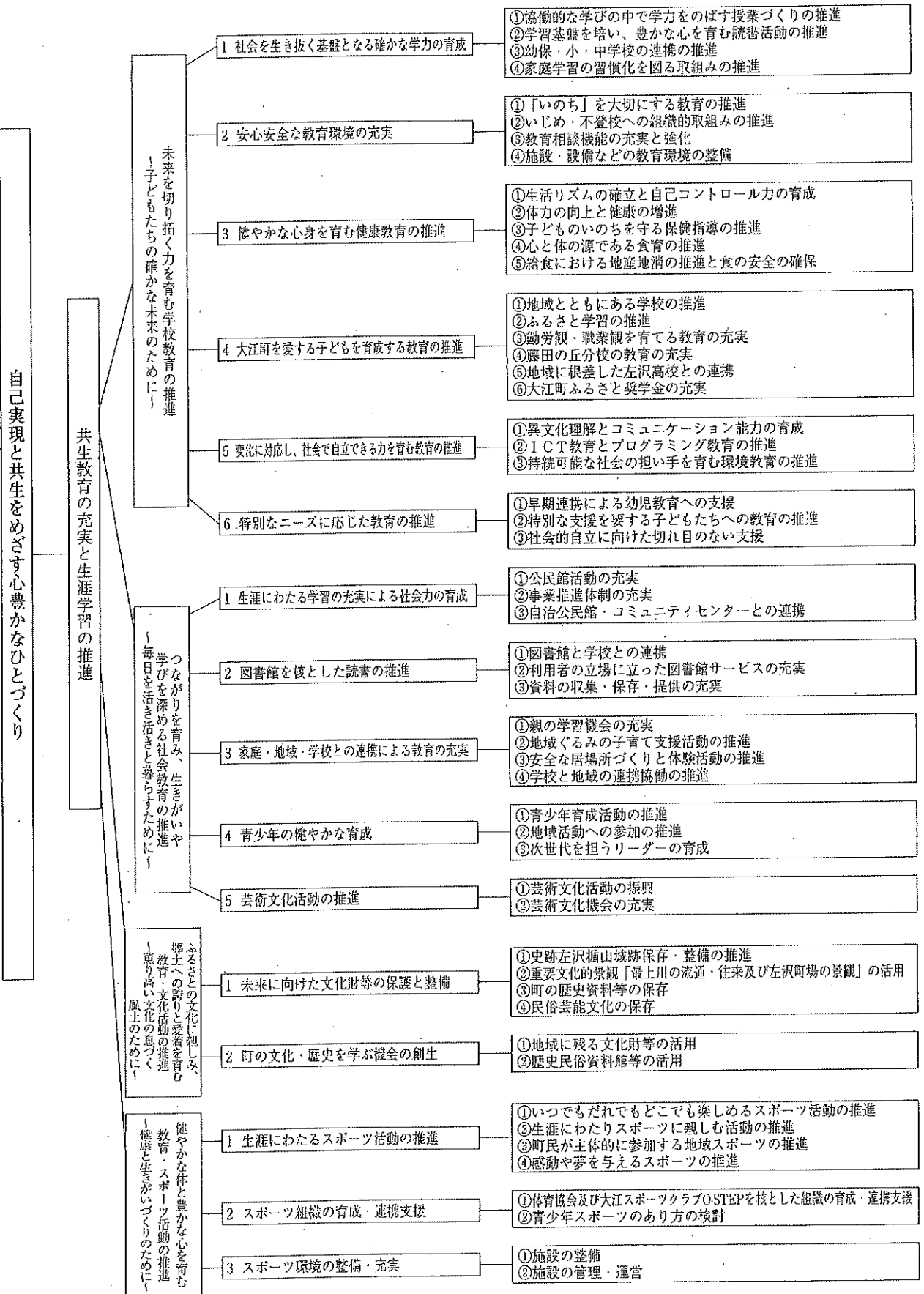
- (1) 舟唄健康マラソンにはリピーターが多いというので、その参加者の声を集約し、強みを前面に押し出すことが、事業の充実に繋がるのではないかな。
- (2) O-STEPの加入者から、「楽しい、面白い」との声を聞くことができる。年配者にとっては生きがいを感じる居場所である。ぜひ継続してもらいたい。
- (3) 部活動の地域移行により、受け皿がないと子ども達がスポーツ活動への参加機会が減り、体力低下に繋がるのではないかと懸念している。指導者の確保や育成など課題はたくさんあるが、引き続き尽力をお願いしたい。
- (4) 町民プールや小鳥山スキー場、テニスコートなどの維持管理については、とても評価できる。スポーツ振興の事業について、今後も引き続き継続してもらいたい。

大江町教育プラン（第3次 大江町教育振興計画） 体系図

理念 基本目標 分野別目標

施策

項目



令和7年度分 大江町教育事務事業点検・評価調書一覧

区分	施策体系	事務事業名	担当係	頁
未来を切拓く力を育む学校教育の推進	1-1-①	小中学校運営事業	学校再編準備室	11
	1-1-①	教育活動推進事業	同	12
	1-2-③	教育相談員配置事業	同	13
	1-2-④	小学校施設整備事業	同	14
	1-2-④	中学校施設整備事業	同	15
	1-2-④	スクールバス運行事業	同	16
	1-2-④	就学支援事業	同	17
	1-3-③	学校保健事業	同	18
	1-3-④・⑤	学校給食事業	同	19
	1-4-⑤	左沢高等学校支援事業	同	20
	1-4-⑥	大江町ふるさと奨学金事業	同	21
	1-5-①	国際理解推進事業	同	22
	1-6-②	学習生活自立支援事業	同	23
つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進	2-1-①、2-5-②	公民館管理運営事業	社会教育係	24
	2-1、2-3、2-4	生涯学習推進事業	同	25
	2-2-①～③	読書推進事業	同	26
	2-3-②～④	放課後子どもプラン推進事業	同	27
	2-3-②、2-4	青少年育成事業	同	28
	2-5-①・②	芸術文化振興事業	同	29
教育・文化活動の推進	3-1-③④ 3-2-①②	文化財保護事業	歴史文化係	30
	3-1-①	左沢楯山城跡保存整備事業	同	31
	3-1-②	文化的景観推進事業	同	32
心豊かな体と豊かな心 を育む教育・スポーツ活動の推進	4-1-①・③	スポーツ振興事業	スポーツ振興係	33
	4-2-②	スポーツ団体育成事業	同	34
	4-3-①・②	スポーツ環境整備事業	同	35

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	小中学校運営事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第1節 社会を生き抜く基盤となる確かな学力の育成 ①協働的な学びの中で学力をのばす授業づくりの推進	予算科目	10:教育費 2・3:小学校費、中学校費 1・2:学校運営費、教育費振興費

2. 事業の概要

事業目的	『主体的・協働的な探究型学習』が展開されるよう、各学校の取り組みを、物・人・指導方法等多方面で支援し、学習環境を整える。
事業内容	・学校運営に要する経常経費 ・教育に要する経費

3. 予算額・決算額

予算現額	65,811	決算額	62,811	(単位:千円 千円未満四捨五入)
(備考)				
主な支出項目				
学校の運営に係る経費 55,127千円 ※給食・学校医関係を除く (報酬、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料、原材料、備品購入、負担金)				
教育振興に係る経費 7,684千円 (報償費、旅費、需用費、役務費、使用料、備品購入、負担金)				

4. 事業の実施状況

左沢小学校 児童数191名 職員数28名 左沢小藤田の丘分校 児童数0名 職員数2名 大江中学校 生徒数163名 職員数32名 小学校計 男子157名 女子127名 合計284名	本郷東小学校 児童数93名 職員数22名 大江中藤田の丘分校 生徒数6名 職員数5名 中学校計 男子95名 女子74名 合計169名
--	--

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの 変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	学校図書システムを導入し貸出記録等デジタル化できた。ICTを活用した学習が少しずつ定着したこと、校務支援ソフトを適切に活用したことにより教職員が社会や地域のニーズに沿った学習を展開するための時間を確保できるようになった。
効率性 経費に見合った効果が得 られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	必要性・緊急性・安全性等を考慮し優先度の高いものに対し支出することで効果を上げている。
有効性 期待された成果は得られ たか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	各学校が予算の範囲内で効果的に執行しており、児童生徒の安定につながった。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	「主体的・協働的な探究型学習」を展開するには、人的・物的な支援が必要である。また、共生郷育を具現化していくうえでも、地域人材と学校をつなぐこと大江町の地域環境を学習教材として活用していくことは重要で、これからより変化の多い社会に対応するために大江町の教員が学び続ける教師として、授業準備や工夫に時間を咲いていくためにもこの事業は継続して推進していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	教育活動推進事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第1節 社会を生き抜く基盤となる確かな学力の育成 ①協働的な学びの中で学力をのばす授業づくりの推進	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育活動推進費

2. 事業の概要

事業目的	自他が互いに高まり合う共生教育の考えに基づいて、主体的・協働的な探究型学習、学習基盤を培い豊かな心を育む読書活動、幼保小中の連携、地域や家庭と連携した教育活動を推進する。
事業内容	・ 学校教育センターを設置し、教職員の資質向上及び大江町全体の教育力向上にむけて講演会、研修会等を実施する。また、児童生徒の学力診断・知能検査を実施し、その分析を行う。 ・ 共生教育の研究や実践活動を支援する。

3. 予算額・決算額

予算現額	9,037	決算額	9,027	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考)				
主な支出項目				
* 知能検査、NRT検査等 1,058千円 * 芸術鑑賞教室 440千円 * 図書購入 6,672千円 (内5,672千円は教師用指導書他)				
* 共生教育推進等 (主に学校教育センター関係) 861千円				

4. 事業の実施状況

「学校教育センターの運営」	
・ 学力向上推進委員会 * 小2～中3 教研式NRTテスト実施 * 小2/4/6中2 知能検査実施	
* 小3～中3 Q-Uアンケート2回実施	
・ 所員全体研修、教育課題一般研修、共生教育推進、所員半日研修会 (大江中学校授業研究会)	
・ 芸術鑑賞教室開催、読書活動推進(図書購入)	

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)		評価	評価の理由
必要性	社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	NRT学力検査の実施により、学習に関する課題を把握し対応策を講じ、改善を図ることができた。また、Q-Uアンケートの実施により、学級の実情を客観的につかむことができ、学級づくりに役立っている。
効率性	経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	学級における学習面及び人間関係を含む生活面の実情を把握することで、学級の課題をつかみ改善を図ることができることから大変効果的であると評価している。また、学校教育センターの課題研修等において、学校管理職からニーズを伺い、現場の教員が求める適切な研修が準備出来た。
有効性	期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	NRT学力検査の結果分析から各校での取り組みが明確になり、子どもたちの学力が高まっている。また、Q-Uアンケートから傾向をつかみ対応したことでのいじめ及び不登校が改善傾向にある。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充	☒ 継続	☐ 縮小	☐ 見直し	☐ 休廃止
今後の対応	いじめに関して改善傾向にあるが、この対応は継続していかなければマイナスの方向に転じてしまう恐れがある。また、不登校傾向の児童生徒の対応については大江町のみならず全国的な課題であり、早期対応と継続した支援を要するため、継続する方向性とする。また、教育内容が多様化・複雑化している現状で個々に応じた指導を実施していくために、今後もNRT学力検査やQ-Uアンケートによる現状把握が指導の方向性を示す重要な役割を果たすものであると考えて継続する。				

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	教育相談員配置事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第2節 安心安全な教育環境の充実 ③教育相談機能の充実と強化	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 2 教育相談費

2. 事業の概要

事業目的	心に悩みを抱える子どもを支援するため、教育相談体制を整え、子どもや保護者の悩みに対応できる体制を構築する。
事業内容	・ 教育相談員を配置し、各種相談への対応を行う。

3. 予算額・決算額

予算現額	2,563	決算額	2,535	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考)				
主な支出項目	* 教育相談員配置 2,053千円(報酬等) 480千円(報償)			

4. 事業の実施状況

・ 教育相談員の配置
* 小学校については各校月2回相談員が訪問し対応している
* 中学校については常駐する会計年度任用職員を1名雇用し不登校生徒のための別室にて対応している

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	学校における相談の内容が複雑化・多様化している中で、相談員の役割は必要不可欠となっている。特に、中学校のみならず小学校からの現状を把握している教育相談員が求められている。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	継続的に相談にのったり助言を行ったりすることで、子どもたちの悩みに対応できている。実際に子どもたちが昨年度の繋がりもある相談員を頼りにし効果を上げている。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	相談をしたことで悩みを解消し、安心して学校生活を送れるようになったり、担任の負担軽減が図られ授業に集中することができたりしている。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充	☒ 継続	☐ 縮小	☐ 見直し	☐ 休廃止
今後の対応	悩みや不安を抱えている児童生徒は多くおり、いじめや不登校の問題が年々心配される昨今である。そんな中、充実した支援体制を確立するためには、人員を増やすか回数を増やすかして、教育相談体制を今以上に強化していく必要があると思われる。また、信頼関係や共感的人間関係を築いたり、幼保小の連携にも理解度の高く生徒に関わったりする教育相談員と連携を図っていく。				

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	小学校施設整備事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第2節 安心安全な教育環境の充実 ④施設・設備などの教育環境の整備	予算科目	10 教育費 2 小学校費 1 学校管理費

2. 事業の概要

事業目的	学校施設の整備を図るとともに、学習に必要な物的環境の整備を推進する
事業内容	○小学校施設・設備の整備及び営繕並びに維持管理をおこなう ○施設用備品などを順次更新していきながら教育環境の充実を図る

3. 予算額・決算額

予算現額	11,499	決算額	11,427	(単位：千円 千円未満四捨五入)
(備考)				
※主な支出項目				
○左沢小学校給食調理室天井取付工事 2,728千円				
○左沢小学校高架水槽漏水修繕工事 774千円				
○左沢小学校 給食調理室給水管更新工事 (R6繰越明許) 3,388千円				

4. 事業の実施状況

○左沢小学校 給食調理室天井取付工事
○左沢小学校 高架水槽漏水修繕工事
○左沢小学校 給食調理室給水管更新工事

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)		評価	評価の理由
必要性	社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	計画的に、状況によっては緊急的に修繕・工事を行っているものの、施設の老朽化が進んでいるため、将来を見据えた大規模な修繕が必要であり、また施設用備品等を順次整備、更新し教育環境の充実を図る必要がある。
効率性	経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	計画的な工事・修繕と施設用備品の整備により、学習に必要な物的環境の整備を図ることができた。
有効性	期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	計画的な工事等により児童の教育環境の充実と向上、施設整備備品の整備により安心して学ぶ環境づくりに役立てることができた。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	○学校は児童の学習・生活の場であるとともに、非常災害時には地域住民の緊急避難場所となっていることから、老朽化して不具合が生じる箇所については、今後も計画的に修繕・工事を実施していく。 ○施設用備品についても引き続き計画的な整備を行っていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	中学校施設整備事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第2節 安心安全な教育環境の充実 ④施設・設備などの教育環境の整備	予算科目	10 教育費 3 中学校費 1 学校管理費

2. 事業の概要

事業目的	学校施設の整備を図るとともに、学習に必要な物的環境の整備を推進する
事業内容	○中学校施設・設備の整備及び営繕並びに維持管理をおこなう ○施設用備品などを順次更新していきながら教育環境の充実を図る

3. 予算額・決算額

予算現額	14,462	決算額	14,304	(単位：千円 千円未満四捨五入)
(備考)				
※主な支出項目				
○普通教室棟空調機器更新工事 10,450千円				
○電気錠及びインターホン設置工事 428千円				
○空調機器更新工事設計委託料 1,815千円				

4. 事業の実施状況

○工事関係：普通教室棟空調機器更新工事、電気錠及びインターホン設置工事 他
○施設用備品 屋内消火栓設備ホース交換

5. 事業の評価

評価の視点（評価項目）	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの 変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	計画的に、状況によっては緊急的に修繕・工事を行っているものの、施設の老朽化が進んでいるため、将来を見据えた大規模な修繕が必要であり、また施設用備品等を順次整備、更新し教育環境の充実を図る必要がある。
効率性 経費に見合った効果が得 られているか	☒ 十分に効果が得られている ☐ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	計画的な工事・修繕と施設用備品の整備により、学習に必要な物的環境の整備を図ることができた。
有効性 期待された成果は得られ たか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	計画的な工事等により生徒の教育環境の充実と向上、施設整備備品の整備により安心して学ぶ環境づくりに役立てることができた。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	○学校は生徒の学習・生活の場であるとともに、非常災害時には地域住民の緊急避難場所となっているため、今後も計画的に修繕・工事を実施していく。老朽化がひどいため、大規模な改修が必要である。 ○施設用備品についても引き続き計画的な整備を行っていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	スクールバス運行事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教 育 振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第2節 安心安全な教育環境の充実 ④施設・設備などの教育環境の整備	予算科目	10 教育費 2・3 小・中学校費 1 学校管理費

2. 事業の概要

事業内容	左沢小2台（用線、藤田線）※藤田線は令和4年7月から開始、業務委託により運行 本郷東小1台（柳川線） 大江中2台（用線、柳川線）※柳川線は業務委託により運行 児童生徒の登下校及び校外授業等での送迎
------	---

3. 予算額・決算額

予算現額	18,736	決算額	17,577	(単位：千円 千円未満四捨五入)
(備考) 運転手報酬等7,416千円 燃料費1,748千円 修繕料2,324千円 車検時役務費199千円 消耗品費737千円 公課費141千円 光熱水費27千円 委託料3,555千円 (臨)スクールバス車庫屋根塗装替工事 1,430千円				

4. 事業の実施状況

児童生徒の利用者数（延べ人数）	左沢小（用・小見・藤田線）64名＋夏バス41名＋学童利用児童、本郷東小（柳川線）9名 大江中（柳川線）夏季6名・冬期7名、（用線）夏季：9名・冬季：11名
-----------------	--

5. 事業の評価

評価の視点（評価項目）	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☒ 適切に対応している ☐ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	スクールバスの冬期間の降車場を役場駐車場に移すことで道路除雪による歩行への影響を解消した。保護者からニーズのあった夏期間下校時熱中症対策として運行区域を拡大し引き続き対応。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	登校時において学校の枠を超えたバスの運行体制の継続と、ルートによる配車を継続し効率的な運行ができています。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	直営運転手の学校の枠を超えた対応と、校外学習等での柔軟な対応により、学校活動で多くの利用をいただいている。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	児童生徒及び学校統合等の状況により随時運行体制の見直しが必要。また緊急時の対応なども考慮し、運転手の連携体制の構築をさらに進めていく。また夏期間の下校時の熱中症対策としてスクールバスの利用に継続的に取り組む。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	就学支援事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第2節 安心安全な教育環境の充実 ④施設・設備などの教育環境の整備	予算科目	10 教育費 2, 3 小学校費, 中学校費 2 教育振興費

2. 事業の概要

事業目的	経済的理由により就学困難な児童生徒の就学機会確保と、特別な支援を要する児童生徒の教育の振興。
事業内容	要保護・準要保護及び特別支援学級在籍の児童生徒の保護者に対し、学用品や校外活動、給食費等に係る費用を支給し援助する。

3. 予算額・決算額

予算現額	2,240	決算額	2,187	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考)				
要保護・準要保護児童生徒就学援助費 小学校895千円 中学校797千円 計1,692千円				
特別支援就学奨励費補助金 小学校259千円 中学校236千円 計495千円				

4. 事業の実施状況

要保護・準要保護児童生徒就学援助費の支給 対象児童生徒数 小学校21名 中学校10名 計31名
特別支援教育就学奨励費の支給 対象児童生徒数 小学校13名 中学校6名 計19名

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	前年度に引き続き準要保護の対象者数は微増し、経済状況の低迷により就学に支援を要する保護者は多く、より必要性が増している。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	経済的困難を理由に就学の機会が妨げられた児童生徒がいないのは本事業の成果である。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	支給額についてはほとんどの項目で7~9割の補助となっており、給食費無償化等の他事業と併せて成果が得られている。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	1人親世帯になったり、コロナの影響による減収など急に経済的困難な世帯になるケースがある。学校や健康福祉課との連携により迅速に認定し、就学困難な児童生徒を支援していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	学校保健事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第3節 健やかな心身を育む健康教育の推進 ③子どものいのちを守る保健指導の推進	予算科目	款 10 教育費 項 1、2、3 教育施設、小学校、中学校 目 1、2 事務局費、学校管理費

2. 事業の概要

事業目的	児童生徒・就学予定者及び教職員の健康管理・健康保持増進を図り、もって学校生活の充実を図る
事業内容	児童生徒及び教職員に各種検診等を実施し、健康状態を把握のうえ事後指導を行うとともに、感染症の予防に努める。また、学校生活を始めるまえに、予め就学前児童に対し健康診断を実施し心身の状況を把握する。

3. 予算額・決算額

予算現額	4,540	決算額	4,435	(単位：千円 千円未満四捨五入)
(備考) 児童生徒諸検診委託料 552千円 教職員健康診断委託料 873千円 健診器具滅菌業務委託料 131千円 各学校医薬剤師報酬・謝礼 2730千円 就学時健診診察報酬 151千円				

4. 事業の実施状況

1. 児童生徒分 (対象学年、実施者数)
①内科・歯科・眼科検診 (全学年対象 447人) ②耳鼻科検診 (小学2・4・6年及び中学2年生対象+α 276人) ③心電図検査 (小学1年生及び中学1年生と要観察者95人) ④尿検査 (全学年2次検査含 457人) ⑤貧血検査 (小学6年生及び中学全学年 197人) ⑥結核検診精密検査 (0人)
2. 教職員分 (実施者数)
①総合健診 (49人) ②胃がん検診 (25人) ③大腸がん検診 (35人) ④ストレスチェック (64人)
3. 就学時健診 (実施者数 36人)
視力検査・聴力検査・ことば・耳鼻科検査・眼科検査・内科検査・歯科検診 ほか

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	法定の諸検査・検診を行い、疾患の早期発見に努めることはもちろんのこと、児童生徒及び教職員が充実した学校生活を送れるよう、保健・衛生・安全面での取り組みが必要。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	新型コロナウイルス等の感染症対策として、学校では手指消毒や医師も手袋等を使用するなどし対応した。教職員のストレスチェックも全員行われた。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	マスク着用、手洗いうがい、こまめな手指消毒といった日々の指導により、概ね健康的に児童生徒が学校生活を営んでいる。教職員のヘルスケアに関する取り組みが、業務多忙により取り組み自体が低調。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	児童生徒及び教職員の健康管理と就学予定者の健康状況の把握のため、引き続き事業を実施する必要がある。 諸検査の結果に基づく事後指導や、学校保健委員会等での振り返りにより、諸検査の実施結果をより効果的に児童生徒の健康増進に生かすことができるよう取り組んでいく。

事務事業点検・評価調査

1. 事業名等

事業名	学校給食事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第3節 健やかな心身を育む健康教育の推進 ④心と体の源である食育の推進 ⑤給食における地産地消の推進と食の安全の確保	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 2、3 小学校費、中学校費 3 教育活動推進費 1 学校管理費

2. 事業の概要

事業目的	児童生徒の心身の健全な発達に資すると共に、食に関する正しい理解と適切な判断力を養うために学校給食を実施する。また学校給食を通して食への関心を高め感謝の気持ちを育み、食育を推進していく。
事業内容	○小学校2校：自校調理方式による完全給食の実施 ○給食無償化の実施 ○中学校：民間委託による完全給食の実施 ○地産地消及び食育の推進 ○給食無償化の実施

3. 予算額・決算額

予算現額	62,907	決算額	61,660	(単位：千円 千円未満四捨五入)
(備考) 給食関係委託(小・中) 1,106千円 給食業務委託(中) 15,510千円 備品購入365千円 賄材料費代等36,754千円 臨時調理師報酬他(小)6,483千円 燃料費 912千円 給食関係消耗品等 530千円				

4. 事業の実施状況

1) 令和4年7月から児童生徒の給食無償化
2) 小学校：自校調理方式による完全給食(給食実施回数：左沢小189回、本郷東小189回) ○栄養バランスのとれた食事を提供するとともに、学校栄養士や給食主任等が食と健康の保持・増進などの指導を行い栄養・食に関する正しい知識の普及に努めた。更には、食への関心の喚起、食事の重要性や食べ物を大切にする気持ちの育成、食物の生産・調理等に関わる人々へ感謝する心の醸成、栄養・食事の摂り方の理解を深め自ら管理する力を身につけさせる、伝統文化への理解を深めることなど、食育を推進。 ○地産地消への取り組み ○ふるさと給食(年10回) ○季節の献立(年20回) ○絆献立(年2回) ○献立作成会議(小学校、中学校各8回)、調理師研修会、給食主任会(2回)、給食運営委員会(2回)
3) 中学校：民間委託による完全給食の実施(給食実施回数：187回) ○管理栄養士が中心となって立てた栄養バランスのとれた献立に基づき、安全で安心な給食を提供。 ○小学校と連携した献立の実施

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☒ 適切に対応している ☐ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	小中連携した献立の作成に取り組んでいる。給食だよりの発行、校内放送による食材の産地等紹介など、食育推進に向けた取り組みを実施した他、町のSNSで毎日の給食を紹介している。また、年間を通して全学年の給食費の無償化を実施した他、食材の高騰化に対応するための支援も実施できた。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	学校給食法における学校給食の目標に則り、栄養バランス・伝統的な食文化への理解・食育等の面で食材補助を活用するなど適切な給食の実施ができた。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	地場産を使用したふるさと給食の実施など、食育の充実をはじめ、地元生産者の顔が見える安全で安心な給食が実現できている。今後は地場産品の使用量をもっと増やしていきたい。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	小学校及び中学校の完全給食、ふるさと給食等の実施や地産地消への取り組みは今後も継続し、小・中が連携した食育の実践も引き続き取り組んでいく。また、安全安心な食の提供のため、食材の残留農薬検査や微生物検査についても継続して実施していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	左沢高等学校支援事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第4節 大江町を愛する子どもを育成する教育の推進 ⑤地域に根差した左沢高校との連携	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 2 事務局費

2. 事業の概要

事業目的	山形県立左沢高等学校の教育機能の充実及び存続に向けた各種支援事業
事業内容	JR左沢線及び路線バスを利用して通学する生徒に対し定期券購入の半額を助成し、左沢高校の活性化を図る。就職や進学に資する資格又は免許を取得するための費用の半額を助成する。 町内で使用可能な商品券を配付し、就学に係る経済的負担を軽減し充実した高校生活の実現を図る。 個別最適な学びを実現するための学習アプリ導入に要する費用を助成する。 左沢高校を支援する会への助成。左沢高校で生産した農産物を町内小・中学校給食へ提供。

3. 予算額・決算額

予算現額	2,507	決算額	2,024	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 左沢高校支援補助金(JR)13名 256千円、(資格取得)24名 59千円、(路線バス)4名 49千円 (学習支援)517千円、修学費支援 1,040千円、左沢高校を支援する会負担金 100千円、農産物購入代 3千円				

4. 事業の実施状況

○定期券(JR)の半額助成事業	1学年4名(76,720円)、2学年4名(86,590円)、3学年5名(92,520円) 合計13名(255,830円)
○資格取得の半額助成事業	1学年4名(7,300円)、2学年13名(28,200円)、3学年7名(23,600円) 合計24名(59,100円)
○定期券(バス)の半額助成事業	1学年3名(45,000円)、2学年1名(4,350円)、3学年0名(0円) 合計4名(49,350円)
○就学費支援事業	1学年20名(400,000円)、2学年33名→37名(350,000円)、3学年29名(290,000円) 合計85名(1,040千円)
○学習支援事業(学習アプリ導入補助)	学習アプリ導入 517,110円

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	定期券・資格取得の半額助成については、高校へ通う家庭の負担軽減が図られる。高校生の就学及び学習を支援する事業を新たに実施し、高校生活をより多岐にしている。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	定期券の半額助成は、保護者からの問い合わせもあり効果を実感している。学習支援アプリは習熟度に合わせた個別最適な学習ができると高校側より評価いただいている。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	学習支援、就学支援等を実施することで高校生活の充実化を図るとともに、通学支援を拡充させることで通学の負担感を軽減、更に支援事業の取組みをPTA総会や学校説明会で広くPRすることで入学生の増加に寄与した。

6. 今後の対応等

方向性	☒ 拡充	☐ 継続	☐ 縮小	☐ 見直し	☐ 休廃止
今後の対応	左沢高校の存続に向け、関係機関と連携しながら支援事業を推進していく。左沢高校が魅力ある学校となるよう令和6年に設置された地域連携協議会活動の成果である東北芸術工科大学と町、高校の3者連携協定を更に活かし、持続可能な魅力化策を検討し引き続き左沢高校の活動を支援していく。				

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	大江町ふるさと奨学金事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 教育振興計画	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第4節 大江町を愛する子供を育成する教育の推進 ⑥大江町ふるさと奨学金の充実	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育活動推進費

2. 事業の概要

事業目的	経済的理由により高等学校及び大学等での修学が困難な者の教育を受ける機会を拡充する
事業内容	高校生・大学生等の修学を支援するため、無利子で奨学金を貸与する。貸与額は、①高等学校及び高等専門学校に在学する者については年額20万円以内（募集人員：新入学生3名程度）、②大学・短期大学及び専修学校（専門課程）に在学する者については年額50万円以内（募集人員：新入学生5名程度）。 奨学金を受けることができるのは、学校等における正規の就学期間とし、申請は一年毎に行うものとする。奨学金の返還は、卒業後6カ月を経過した月の翌月から、貸与を受けた奨学金総額により決められた期間内に行う。 令和8年4月より海外大学進学者も対象。また、卒業後町に定住する方に対し、令和7年度より町独自の奨学金返還支援事業（最大200万円）と大江町教育ローン返済支援事業（最大300万円）を開始した。

3. 予算額・決算額

予算現額	基金事業で運用	決算額	基金事業で運用	(単位：千円 千円未満四捨五入)
(備考) 令和7年度末基金総額 50,148千円		債権額34,034千円(貸与額累計74,728千円、返還額累計43,693千円)		
		令和7年度末現金残高 19,113千円(令和7年度利子38千円)		

4. 事業の実施状況

貸与者	大学(短大含)6名[1年生×2名,その他学年×4名] 高等専門学校1名[1年生×1名,その他学年×0名]	小計7名
貸与総額	200千円×1名 + 500千円×6名 = 3,200千円	

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☒ 適切に対応している ☐ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	無利子で利用しやすい制度となっている。海外の大学への進学者に対象拡大した。県(町との共同事業)の返済支援事業利用者も増えてきており町内回帰者も増えてきている。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	制度創設から10年以上経過。返還が滞る奨学生も少ない状況。新規の申請者は年3名程度で推移し、大学等進学率が増加する中、進学の下支えとなっている。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	町独自の奨学金返還・教育ローン返済支援を開始し、奨学金相談者も増加。大学等進学者及びふるさと回帰者の増加も見受けられる。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	奨学金制度は定着してきているといえる。町が県と一緒に進めている奨学金返還支援事業及び昨年度より開始した町独自の奨学金返還・教育ローン返済支援事業の周知を図り、さらなる「地元回帰」につながるよう事業を実施していきたい。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	国際理解推進事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第5節 変化に対応し、社会で自立できる力を育む教育の推進 ①異文化理解とコミュニケーション能力の育成	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育活動推進費

2. 事業の概要

事業目的	外国の人々との交流を通し、言語や文化に対する理解を深めることで、社会や経済のグローバル化に対応し、国際社会に貢献できる子どもの育成を目指し、環境整備に努めます。
事業内容	①外国語指導助手(ALT)配置事業 ②英語学習力強化事業

3. 予算額・決算額

予算現額	18,536	決算額	11,245	(単位:千円 千円未満四捨五入)
(備考) 中学生国際理解教育研修費2,852円 外国語指導助手配置事業7,167千円(ALT分3,992千円、外国語指導員分3,175千円) 英語技能検定・オンラインレッスン受講料1,175千円 英検チャレンジ支援謝礼等11千円 英語活動事業謝礼40千円				

4. 事業の実施状況

①外国語指導助手配置事業	大江中:月、火 左沢小:水、金 本郷東小:火、木 藤田の丘分校に8回、にじいろ保育園に8回 ALTと外国語指導員の2名体制で英語学習を行った。学校での活動は、中学校では英語教諭の助手、小学校では、3・4年生が外国語活動として週1時間、5・6年生が外国語科として実施。
②英語学習力強化	英語学習力を強化するため大江中3年生の英語技能検定受験料を負担。 大江中1年生のブリティッシュヒルズへの動機づけを目的としたオンラインレッスンの実施。 昨年年度まで行っていた小6実施のGTECについては、今後の比較分析の観点から、中一の春に実施するNRT(英語)に変更した。
③中学生国際理解教育研修	大江中2年生が福島県のブリティッシュヒルズにおいて1泊2日の行程で一日英語で過ごす体験活動を行った。
④小学校低学年英語活動	小1・小2に分けて会場を中央公民館にして、ハロウィンとクリスマスに合わせて英語を楽しむ活動を実施。

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	ALTと外国語指導員が各学校規模に応じて、中学校英語科、小5・6の外国語科、小3・4の外国語活動の授業に入ることができ、また、にじいろ保育園にも派遣することができた。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	ブリティッシュヒルズの中2の体験は、生徒の英語への関心・意欲を喚起することができた。また、中一の春に実施したNRTの結果を、年度当初から把握し、英語の授業に役立ててもらっている。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	ALTと外国語指導員の関わりにより、児童生徒の英語への関心や学習意欲が高まっている。今年度から実施しているNRT(英語)の聞くこと・書くことが全国より高い成績であった。話すことは、「身近なことを発表すること」に課題があった。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	今後も学びの連続性を意識し小中7年間の外国語授業の充実・小学校低学年の動機づけの充実を図っていく。また、小6実施のGTECについては、今後の比較分析の観点から、中一の春に実施するNRT(英語)に変更した。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	学習生活自立支援事業	所管課・係	教育文化課 学校教育係
施策体系 [教育振興計画]	第1章 未来を切り拓く力を育む学校教育の推進 第6節 特別なニーズに応じた教育の推進 ②特別な支援を要する子どもたちへの教育の推進	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育活動推進費

2. 事業の概要

事業目的	特別な支援を要する児童生徒への対応や悩みを抱える子どもの自立支援に向けた個別支援の充実を図る。
事業内容	障がいや個別に支援が必要な児童生徒に対して個に応じたきめ細やかな指導を行うため、学習生活支援員を配置する。

3. 予算額・決算額

予算現額	15,266	決算額	15,253	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 主な支出項目 * 学習生活支援員報酬外 15,253 (報酬12,474、期末手当1,423、勤勉手当1,024、旅費332) 千円				

4. 事業の実施状況

・ 学習生活支援員の配置	* 配置校3校 * 配置人数7名 (左沢小2名、本郷東小2名、大江中3名)
--------------	--

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの 変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	ひと学級の人数が多い場合、全ての児童生徒に対応するために学習支援員が学習サポートに入っている。また、小学校低学年や特別支援学級においては生活支援のためにサポートとして入っている。
効率性 経費に見合った効果が得 られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	個々に応じた学習支援ができるため、児童生徒は集中して学習に望むことができている。また、学校生活においても児童生徒と関わりをもっているため、児童生徒間のトラブルの未然回避につながっている。
有効性 期待された成果は得られ たか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	学習生活支援員がいることで児童生徒に目が届きやすくなっている。また、担任の業務負担軽減から担任の児童生徒への関わりに余裕が生まれている。

6. 今後の対応等

方向性	☒ 拡充 ☐ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	個別最適な学習が推進されていく中で、ICTを活用した学習活動等が今以上に活性化されていくことが予想される。また、多様性を尊重し、個々のニーズに対応していくことを考えると学級担任だけの対応では限界があるため、今後益々学習生活指導員の必要性は高まっていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	公民館管理運営事業	所管課・係	教育文化課 社会教育係
施策体系 [教育振興計画]	第2章 つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進 第1節 生涯にわたる学習の充実による社会力の育成 ①公民館活動の充実 ②事業推進体制の充実 第5節 芸術文化活動の推進 ②芸術文化機会の充実	予算科目	10:教育費 4:社会教育費 2:公民館費

2. 事業の概要

事業目的	生涯学習推進の施設としての役割が果たせるよう、中央公民館と町民ふれあい会館、克雪管理センターの管理運営を行う。
事業内容	効率的かつ適正な公民館の管理運営と、利用者ニーズに対応した施設や学習機材等の整備による利用促進を図る。

3. 予算額・決算額

予算現額	38,001	決算額	36,693	(単位:千円 千円未満四捨五入)
[中央公民館 15,023千円] 夜間及び休日の管理人配置 3,765千円、光熱水費外需用費 6,963千円、清掃外委託料 3,747千円 外 [町民ふれあい会館 21,136千円] 夜間及び休日の管理人配置 5,260千円、光熱水費外需用費 6,440千円、清掃外委託料 5,032千円 外 [克雪管理センター534千円] 光熱水費外需用費 165千円、管理等委託料 268千円 外				

4. 事業の実施状況

夜間及び休日の管理人配置、清掃外業務委託 外

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	住民の多様な生涯学習活動の場として利用されている。また町内団体等の使用料を免除することにより利用率が高まり、生涯学習活動を活発にしている。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	効率的かつ適正な公民館の管理運営に努めるほか、施設設備の維持修繕及び更新は、優先度の高いものから実施している。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	生涯学習推進の施設としての役割が果たされている。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	今後も、利用者の安全と利便性を基本に維持修繕及び更新し、管理運営に努めていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	生涯学習推進事業	所管課・係	教育文化課 社会教育係
施策体系 [教育振興計画]	第2章 つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進 第1節 生涯にわたる学習の充実による社会力の育成 第3節 家庭・地域・学校との連携による教育の充実 ①親の学習機会の充実 第4節 青少年の健やかな育成 ③次世代を担うリーダーの育成	予算科目	款 10 教育費 項 4 社会教育費 目 2 公民館費

2. 事業の概要

事業目的	生涯学習推進に向け、住民の主体的な活動を支援するため学びのきっかけづくりを行う。
事業内容	人生の各ステージにおける学びの場の設定と各種団体等の活動支援、生涯学習に関する情報提供。家庭教育に関する学習機会の提供。A L Tを活用した英語学習機会の提供。イベントを通じた住民活動の発表機会の提供。

3. 予算額・決算額

予算現額	10,442	決算額	10,277	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 社会教育指導員の配置 1,973千円、講師謝礼等報償費 738千円、事業用消耗品費・食糧費 372千円、生涯学習カレンダー等印刷製本費 1,029千円、公民館総合補償制度加入保険料 172千円、映画上映会時著作権使用料 338千円、文化祭共催事業負担金 500千円、山響負担金 87千円、おおえ舟唄太鼓の会活動補助金 80千円、芸術文化団体協議会補助金 60千円、自治公民館整備費補助金 4,110千円 外				

4. 事業の実施状況

英会話講座 (9回、登録8人、延43人)、シルバー講座 (学習講座4回、館外研修1回、登録35人、延100人)、おらだのまち探訪 (5回、登録29人、延77人)、女子力アップ講座 (学習講座4回、館外研修1回、登録28人、延105人)、フリープラン講座 (17回、420人)、教育文化振興基金活用事業 (映画上映会1回、来場者204人)、生涯学習カレンダー・ぷくらすカレッジパンフレット・お知らせ版「生涯学習のひろば」を活用した情報提供、町民ふれあい会館ホワイエ展示 8団体、外

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)		評価	評価の理由
必要性	社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	参加者による運営委員会を設置し、学習・交流の機会を求める町民のニーズを踏まえた内容の各種教室、講座を実施している。
効率性	経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	各種教室、講座等については、参加者より参加料を一部負担していただき、効率的に開催している。
有効性	期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	ぷくらすカレッジは、参加者アンケートをみると全体的には好評を得ている。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	H29年度開校した「おおえ町民大学ぷくらすカレッジ」を生涯学習事業の柱ととらえ、その枠組みの中で成人・女性の学びのきっかけづくりとしての「おらだのまち探訪」「女子力アップ」などの講座、高齢者の学びの場としての「シルバー講座」、自らの学びの成果を地域へ還元する「縁joy講座」を継続実施している。参加者アンケートも行い、参加者の意向も把握しながら行っていきたい。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	読書推進事業	所管課・係	教育文化課 社会教育係
施策体系 [教育振興計画]	第2章 つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進 第2節 図書館を核とした読書の推進	予算科目	10:教育費 4:社会教育費 3:図書館費

2. 事業の概要

事業目的	読書に親しむことにより豊かな心を育み、より深く生きる力を身につけ地域社会に温かい絆を広げていくため、施設・蔵書・図書活動の充実を図る。
事業内容	図書購入、図書貸出返却等整理作業、企画展示（毎月）、レファレンス業務、おはなしボランティア活動（全12回）、図書館まつりの実施

3. 予算額・決算額

予算現額	13,570	決算額	13,394	(単位：千円 千円未満四捨五入)
(備考) 図書館職員賃金 6,721千円、図書購入 1,932千円、雑誌購入等消耗品費 731千円、 蔵書管理システム借上料 1,702千円、ボランティアサークル活動補助金 60千円 外				

4. 事業の実施状況

図書購入 995冊・寄贈本登録冊数 865冊 R8.3月末現在図書蔵書数 34,387冊 図書貸出冊数 12,385冊（一般書7,724冊 児童書4,234冊 雑誌421冊 視聴覚資料（DVD等）6枚） 図書館利用者カード登録者数 2,570人 図書の整理と貸出、レファレンス業務（図書館会計年度任用職員3名） おはなし会の実施（12回、いとぐちま、毎月第4土曜日） こどもの読書週間推進イベント「春は図書館へ行こう！」174人（日本一くん、めりえ、本のおたのしみボックス） 図書館まつり2025 545人（無料映画上映会、スタンプカード、おすすめ本取寄せ、リサイクル市、ブックコート、日本一くん） ※リサイクル市はカウントなし

5. 事業の評価

評価の視点（評価項目）		評価	評価の理由
必要性	社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	町民の図書館に対するニーズに対応できるよう図書館協議会を設置し意見を反映させている。地域に根差した図書館として社会情勢の変化に対応し歴史や文化に関する資料も充実している。
効率性	経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	一般書・児童書ともに計画的に購入を行うとともに、ボランティアによるおはなし会の実施や図書の整理等を行った。また、蔵書管理システムの導入により迅速な貸出返却の対応や、図書館のホームページ開設によりインターネットでの予約等を行っている。
有効性	期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	蔵書管理システムの導入、蔵書の充実、図書の適正な整理などを実施し、利用者の利便性の向上を図っている。また、図書館を支援する団体「おおえ図書館倶楽部」の方々に協力いただき図書館まつりを実施するなど住民の関わりを得ることができた。

6. 今後の対応等

方向性	☒ 拡充 ☐ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	令和8年度、既存の蔵書管理システムにマイナンバー連携等の機能を追加し電子化を図るとともに、引き続きオンラインでの図書予約や蔵書の確認等により利用者の利便性向上、利用者拡大を目指す。また、読書のバリアフリー化や読書環境の整備を目的に電子書籍等の導入についても引き続き検討していく。 令和8年度に子ども読書推進計画の策定を行い、自ら本に親しむ読書好きな子どもを育む活動を社会全体で取り組んでいく機運を高めていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	放課後子どもプラン推進事業	所管課・係	教育文化課 社会教育係
施策体系 [教育振興計画]	第2章 つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進 第3節 家庭・地域・学校との連携による教育の充実 ②地域ぐるみの子育て支援活動の推進 ③安全な居場所づくりと体験活動の推進 ④学校と地域の連携協働の推進	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 1 社会教育総務費

2. 事業の概要

事業目的	小学生の児童を対象に多彩な「体験教室」を行い、体験を通して子どもたちの豊かな情操、社会力を育む環境づくりを推進する。
事業内容	放課後や週末、夏季等学校長期休業中に、体験型の多彩な教室を開催する放課後子ども教室を実施し、町の将来を担う子ども達の豊かな情操、社会力を育む。

3. 予算額・決算額

予算現額	5,434	決算額	5,195	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 社会教育指導員等の配置 1,948千円、運営委員・協働活動支援員・協働活動サポーター報償 823千円、消耗品等需用費 624千円 外 ※補助対象経費 4,171千円に対して、国1/3、県1/3、計1,751千円の補助を受けて実施。 運営委員 9人、協働活動支援員 33人、協働活動サポーター 25人				

4. 事業の実施状況

手芸教室 (5回×2、延べ56人)、料理教室 (3回×2、延べ62人)、陶芸教室 (2回、延べ29人)、自然体験塾 (2回、延べ23人)、野外活動体験 (1回、18人)、書道教室 (37回、登録者63人、延べ1,808人)、出前教室 (4回、116人)、フラワーアレンジメント (2回、24人)、ボードゲームクラブ (4回、54人)、英会話教室 (29回、登録者10人、延べ251人)、うきうきジオラマ教室 (2回、14人)、生き物キッズラボ (4回、45人)
--

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)		評価	評価の理由
必要性	社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	放課後の子ども達の学習の場として定着している。
効率性	経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	町民の方々から、持っている能力を活かした有償ボランティアの協働活動支援員、協働活動サポーターとして協力をいただき開催できている。
有効性	期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	多彩な教室を開催し、子ども達の学びの選択肢を広げると共に地域の大人と関わり合う中で、子ども達の社会性・好奇心の向上がみられた。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	放課後子ども教室の実施にあたっては、協働活動支援員、協働活動サポーターの協力が不可欠であるため、その養成と確保に努め、教室の内容も検討し新しい内容も取り入れながら今後も事業の充実を図りながら継続していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	青少年育成事業	所管課・係	教育文化課 社会教育係
施策体系 [教育振興計画]	第2章 つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進 第3節 家庭・地域・学校との連携による教育の充実 ②地域ぐるみの子育て支援活動の推進 第4節 青少年の健やかな育成	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 1 社会教育総務費

2. 事業の概要

事業目的	青少年の健全育成を促し、地域活動への参加を推進する。
事業内容	中高生を対象としたボランティア活動への支援、子ども会育成会連合会への支援、青少年健全育成事業への支援、成人式の実施 外

3. 予算額・決算額

予算現額	1,847	決算額	1,688	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考)				
社会教育委員報酬(9名) 243千円、青少年育成推進員報酬(6名) 70千円、20歳のつどい実行委員会報酬 324千円、子どもの居場所づくり事業報酬 562千円、社会教育連絡協議会負担金 19千円、青少年育成町民会議運営補助金 60千円 外 ※その他、青少年育成町民会議(青少年健全育成事業費・子ども会育成事業費・ボランティア育成事業費)より支出				

4. 事業の実施状況

中高生のボランティアサークル「夢憧布(ぼけっと)」(大江中生等38名参加) …町内清掃活動。観光大使プロジェクト(町内5箇所) 子ども会育成会連合会事業…GOGOキャンプ、ハロウィン英語遊び(国際交流事業協同事業)・ハロウィンロールケーキ作り 青少年健全育成事業への支援…青少年育成推進員の独自事業として、中学校卒業式時にフォトスポットを作成・設置した。

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	ボランティアサークル「夢憧布(ぼけっと)」の活動は、青少年の健全育成事業として定着している。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	事業費は、青少年育成町民会議の予算から支出し、青少年育成推進員や子ども会育成会役員の協力をいただきながら実施した。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	青少年育成推進員の独自事業の卒業式フォトスポットの設置が好評で来年度以降も行っていきたいとの声が多かった。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	ボランティアサークル「夢憧布(ぼけっと)」については、会員が楽しみながら事業を実施できるよう、また主体的な活動になるよう支援していく。 子ども会育成会連合会事業並びに青少年健全育成事業については、青少年育成推進員の協力が不可欠であるため、その養成と確保に努め推進員の独自企画を支援していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	芸術文化振興事業	所管課・係	教育文化課 社会教育係
施策体系	第2編 施策の方針 第2章 つながりを育み、生きがいや学びを深める社会教育の推進 第5節 芸術文化活動の推進	予算科目	10 教育費 04 社会教育費 02 公民館費

2. 事業の概要

事業目的	文化事業の開催や芸術文化団体への支援により、町の芸術文化の振興を図る。
事業内容	教育文化振興基金活用事業、文化祭、芸術文化団体への支援

3. 予算額・決算額

予算現額	1,019	決算額	1,006	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 文化祭共催事業負担金 500千円、山形交響楽協会負担金 89千円、巡回県美展開催負担金 30千円 おおい舟唄太鼓の会補助金 80千円、芸術文化団体協議会補助金 60千円、ぶくらすコンサート公演費 247千円				

4. 事業の実施状況

文化祭: 10月24日～26日の3日間、中央公民館・ふれあい会館、延べ1,165人の参観 音の文化祭(ひなまつりコンサート): 3月15日、ふれあい会館、延べ 593人の参観 ぶくらすコンサート～弦楽アンサンブルのしらべ～ : 令和8年2月25日(水) 中央公民館(ぶくらす) 129人の参観 芸術文化団体への支援として負担金補助金の交付(山響、舟唄太鼓の会、芸文協)を行った。
--

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	演奏音楽会や文化祭、音の文化祭(ひなまつりコンサート)、ぶくらすコンサートの開催により多くの町民が参観し、芸術文化に触れる機会を設けることができた。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	文化祭を通し、町民が芸術文化に触れる機会を得られた。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	多くの参観者に芸術文化を公開し、また、情報を発信することができた。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	心豊かな地域社会の創造に向け、文化事業を引き続き開催していくとともに、芸術文化団体協議会の支援・育成を継続し芸術文化の振興を図っていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	文化財保護事業	所管課・係	教育文化課 歴史文化係
施策体系 [教育振興計画]	第3章ふるさとの文化に親しみ、郷土への誇りと愛着を育む教育・文化活動の推進～薫り高い文化の息づく風土のため～ 第1節未来に向けた文化財等の保護と整備 ③町の歴史資料等の保存 / ④民俗芸能文化の保存 第2節町の文化・歴史を学ぶ機会の創生 ①地域に残る文化財等の活用 / ②歴史民俗資料館等の活用	予算科目	10 教育費 04 社会教育費 05 文化財保護費

2. 事業の概要

事業目的	文化財の保護・活用及び郷土芸能継承団体への支援により町民の文化振興を図る。
事業内容	文化財の管理・活用 郷土芸能継承団体育成のための補助金交付、指定文化財管理のための謝礼の支払 町史編さん事業及び歴史的資料の収集及び保管、歴史民俗資料館の管理と活用事業の実施

3. 予算額・決算額

予算現額	6,324	決算額	6,072	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 主要事業費抜粋				
歴史編さん関係費用	2,383 千円	歴史民俗資料館管理関係費用	2,407 千円	
看板修繕費用	764 千円	郷土芸能伝承・団体育成補助金	275 千円	
指定文化財管理謝礼	70 千円	文化財保護事業費外	173 千円	

4. 事業の実施状況

文化財保護委員会の開催(委員5名)、指定文化財補助金交付(県2件、町5件)、郷土芸能継承団体補助金交付(4団体)、郷土芸能団体育成補助金交付(1団体)、町史編さん業務(町史編さん専門員1名) 歴史民俗資料館活用事業(入館利用者数・1,049人) 文化祭協賛行事 伝統食のつどい(10月25日開催、50名、参加費1,200円) 小正月行事 雪中田植の実演・伝統食(1月18日開催、49名、参加費1,200円) ひなまつり ひな人形の展示・麦茶の提供(3月29日・30日 83名)
--

5. 事業の評価

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	郷土芸能伝承のための事業を実施する団体に対し補助し育成に取り組んだ。 町史編さん資料集の作成に向けて準備をすすめた。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	郷土芸能伝承・保存団体や指定文化財管理者への補助金等を交付することで、団体または管理者が保存、保護を行うことにより適正な伝承、管理が行われている。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	郷土芸能伝承・保存経費の一部を補助することにより各種団体による保存・伝承をしていたが、人口減少により活動休止団体も出てきている。指定文化財は管理者への謝礼支払により適正な管理が行われている。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充	☒ 継続	☐ 縮小	☐ 見直し	☐ 休廃止
今後の対応	文化財や伝統芸能は失くしてしまえば元に戻すことは容易なことではないため、今後とも新たな町指定物件の追加を含めた文化財の保護・活用を推進するとともに、町の歴史を知るうえで必要不可欠な資料を収集・保管し、町の歴史・文化を次世代に伝えていくこととする。 歴史民俗資料館事業の小正月行事に関しては、生涯学習講座と連携し雪中田植え見学者の増加を図るとともに、年中行事の大切さを多くの方々から学んでもらった。今後とも入館者の増加を目指しサポーターの協力を得ながら事業展開をしていきたい。				

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	左沢楯山城跡保存整備事業	所管課・係	教育文化課 歴史文化係
施策体系 [教育振興計画]	第3章ふるさとの文化に親しみ、郷土への誇りと愛着を育む教育・文化活動の推進～薫り高い文化の息づく風土のため～ 第1節未来に向けた文化財等の保護と整備 ①史跡左沢楯山城跡保存・整備の推進	予算科目	10 教育費 04 社会教育費 05 文化財保護費

2. 事業の概要

事業目的	史跡「左沢楯山城跡」の保存・整備及び利活用により町づくりに資する。
事業内容	・ 2期整備に係る寺屋敷上部曲輪の発掘調査、最上川治水対策に係る試掘及び測量等の実施。 ・ 史跡境界を明示するための境界杭の設置及び左沢楯山城跡調査報告書の作成。 ・ 見晴らしを確保するため樹木伐採の実施。

3. 予算額・決算額

予算現額	11,580	決算額	11,416	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 主要事業費抜粋				
保存整備検討委員会	310 千円	境界杭設置業務委託料	5,567 千円	
樹木伐採業務委託料	814 千円	遺構数値化業務委託費	1,418 千円	
左沢楯山城跡調査報告書印刷費	743 千円	発掘調査時人夫手数料及び重機借上料	1,101 千円	
		楯山公園維持管理費外	1,463 千円	

4. 事業の実施状況

保存整備検討委員会の開催(4回)、現地指導(1回)、普及啓発活動(弓矢作成・楯山散策1回)、史跡保存管理(日常維持管理)、発掘調査(左沢楯山城跡・治水関係)、遺構数値化業務、樹木伐採業務、境界杭設置、左沢楯山城跡調査報告書作成等
--

評価の視点(評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	町民の誇りである国指定史跡「左沢楯山城跡」を後世に伝えるため保存・管理を実施した。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	史跡整備として樹木伐採業務及び史跡境界を明確にする境界杭設置を実施した。より親しみやすい史跡とするため、維持管理・環境整備を実施した。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	文化財として保護を図るため、保存管理計画に基づき適正な管理・活用を行った。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充	☒ 継続	☐ 縮小	☐ 見直し	☐ 休廃止
今後の対応	楯山公園については、普及啓発活動として自然の家と協力した弓矢作成及び楯山散策の事業を実施したが、今後とも活用のPRを引き続き実施していきたい。第2期整備に向けて左沢楯山城跡保存整備検討委員会から指導や助言を得ながら、準備を行っていききたい。 また、百目木地区の治水対策事業に係る試掘等の事業が増大しているが、優先順位をつけながら業務を進めていきたい。				

事務事業点検・評価調査

1. 事業名等

事業名	文化的景観推進事業	所管課・係	教育文化課 歴史文化係
施策体系 [教育振興計画]	第3章ふるさとの文化に親しみ、郷土への誇りと愛着を育む教育・文化活動の推進～薫り高い文化の息づく風土のため～ 第1節未来に向けた文化財等の保護と整備 ②重要文化的景観「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」の活用	予算科目	10 教育費 04 社会教育費 05 文化財保護費

2. 事業の概要

事業目的	国の選定を受けた重要文化的景観「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」の保護と活用を図る。
事業内容	文化的景観事業を検討する、文化的景観保存整備検討委員会等の開催。「左沢の流通・往来及び左沢町場の景観」の保存活用を目的として重要な構成要素の高取家耐震工事及び高取家の普及啓発活動を実施。最上川・月布川の治水対策に関する現状変更等にかかる事業の調整。

3. 予算額・決算額

予算現額	10,898	決算額	9,329	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
(備考) 主要事業費抜粋				
保存整備検討委員会委員等報償	700 千円	高取家耐震工事	6,578 千円	
高取家耐震工事監理業務	594 千円	高取家維持管理費外	1,457 千円	

4. 事業の実施状況

文化的景観保存整備検討委員会の開催 (4回)、土木部会等 (4回)、建築部会 (3回)、治水対策打合せ (7回)、高取家耐震工事、高取家の普及啓発活動。
--

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	日々の生活に根ざした身近な景観の文化的な価値を正しく評価し、地域で護り、次世代へと継承していくことができる。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	文化的景観の重要な構成要素である高取家の耐震工事を実施した。 また、活用に向けて高取家の普及啓発活動を実施した。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	「最上川の流通・往来及び左沢の町場の景観」が、県内初となる国の重要文化的景観に選定され、事業を推進することにより、町内外に広く文化的景観の町であることをアピールできた。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充	☒ 継続	☐ 縮小	☐ 見直し	☐ 休廃止
今後の対応	文化的景観は、日々の生活に根ざした身近な景観であるため、日頃その価値にはなかなか気づきにくいものである。国の重要文化的景観選定を受け、今後、これをどのようにまちづくりへと活かしていくか、町民の誇りと意識を高め、次世代へと継承していくことができるかを住民へ周知する必要がある。事業の具体的な進め方としては整備計画に基づく重要な構成要素 (建築物) の保存整備を進めていきたい。 堤防整備やかわまちづくり計画策定に向けて、土木部会等の打合せが多く通常業務を圧迫しているが、安全・安心な暮らしと国選定文化財の保存を両立させるため、百目木と鹿子沢地区に係る治水対策について、重要文化的景観の価値を説明し理解を得ながら、関係部署と連携し対応していきたい。				

事務事業点検・評価調査

1. 事業名等

事業名	スポーツ振興事業	所管課・係	教育文化課 スポーツ振興係
施策体系	第4章 健やかな体と豊かな心を育む教育・スポーツ活動の推進 第1節 生涯にわたるスポーツ活動の推進 ①いつでもだれでもどこでも楽しめるスポーツ活動の推進 ②生涯にわたるスポーツに親しむ活動の推進 第2節 スポーツ組織の育成・連携支援 ①スポーツ協会及びO-STEPを核とした組織の育成・連携支援	予算科目	款 10 教育費 項 5 保健体育費 目 1 保健体育総務費 事業 1 体育振興全般に要する経費

2. 事業の概要

事業目的	多様なニーズに対応できる体系を構築し、多くの住民が気軽に参加できるスポーツ活動を推進する。
事業内容	ニュースポーツ及びレクリエーション活動の推進、駅伝及び剣道競技の強化支援 スポーツ協会の活性化、スポーツ大会の充実のための支援と加盟団体等の活動支援

3. 予算額・決算額

予算現額	6,363	決算額	6,042	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
スポーツ推進委員報償費165 町スポーツ協会補助金4605 その他934				
社会体育推進員138 左沢高校剣道部育成補助金200				

4. 事業の実施状況

スポーツ推進委員11名委嘱、社会体育推進員55名委嘱、 町スポーツ協会（舟唄健康マラソン・ふらばー、綱引き大会実施、ソフトボール大会中止、加盟団体大会は6団体が実施、1団体は中止）、左沢高校剣道部への支援

5. 事業の評価

評価の視点（評価項目）	評価	評価の理由
必要性	社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか ☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	昨年度に引き続き2回目の開催となったふらばーバレー大会は、中学生のチームや若い世代の参加があり、新しい形でのスポーツ大会を継続できている。
効率性	経費に見合った効果が得られているか ☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	ふらばーバレー大会に若年層からの参加が多かったことから、町駅伝からふらばーバレーへ切り替えた成果があったと捉えている。また、舟唄健康マラソン大会はリピーターも多く、魅力的な事業に成長しているものと考え。
有効性	期待された成果は得られたか ☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	社会体育推進委員の協力により大会運営が行えており、地域の交流を図る機会が創出できている。また、ふらばー大会やマラソン大会は地域とは異なるコミュニティで参加することができ、町民が気軽に参加できるスポーツ機会の創出に寄与している。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	町民がスポーツに親しめるようスポーツ推進委員や社会体育推進員の協力を仰ぎながら、イベント参加者の拡大、スポーツレクリエーション活動及び健康づくりと地域コミュニケーション活動の推進につなげていく。また、状況に応じイベント内容の見直しを図りながら、町民が参加しやすいイベントの開催を目指していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	スポーツ団体育成事業	所管課・係	教育文化課 スポーツ振興係
施策体系	第4章 健やかな体と豊かな心を育む教育・スポーツ活動の推進 第1節 生涯にわたるスポーツ活動の推進 ③町民が主体的に参加する地域スポーツの推進 ④感動や夢を与えるスポーツの推進 第2節 スポーツ組織の育成・連携支援 ①スポーツ協会及び0-STEPを核とした組織の育成・連携支援 ②青少年スポーツのあり方の検討	予算科目	10教育費 5保健体育費 1保健体育総務費 2生涯スポーツ振興事業に要する経費 3スポーツ振興基金事業に要する経費

2. 事業の概要

事業目的	優れた成績を収めた選手及び団体への支援、総合型地域スポーツクラブの活動支援をおこなう
事業内容	スポーツクラブ活動の支援 スポーツ振興基金を運用した競技団体の活性化事業 全国大会出場選手への激励金交付

3. 予算額・決算額

予算現額	3,683	決算額	3,464	(単位：千円 千円未満四捨五入)
スキー教室講師謝礼88 0-STEP運営補助金3054		全国大会出場選手激励金140 競技団体等活性化補助金（青少年スポーツ団体振興事業補助金）90		

4. 事業の実施状況

総合型地域スポーツクラブ0-STEP事業	フィットネス、ヨガ、太極拳教室等通年教室が11教室、カヌー体験教室、スノートレッキングの計13教室を実施し、会員数は148名、延べ4939名 全国大会出場者（11名14件支援）へ激励金交付 小鳥山スキー教室開催 22名参加
----------------------	---

5. 事業の評価

評価の視点（評価項目）	評価	評価の理由
必要性 社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	総合型地域スポーツクラブ0-STEPの活動がスタートし14年目となり、町民の多様なニーズに応えるべく運営を行ってきた。0-STEPの事業により、生涯スポーツの推進を図るほか、多種多様なメニュー展開により町民の主体的な参加を促進できている。
効率性 経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	アンケートなどを参考としながら、ニーズに合わせて教室を開催し、継続会員の増加に努めている。また、青少年のスポーツ活動の支援として激励金を交付し、スポーツの振興を図っている。
有効性 期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	0-STEP事業では会員数及び教室への参加者も定着しており、幅広い世代の方にスポーツ活動の場を提供することができている。また、青少年のスポーツ活動の支援として激励金を交付するとともに、表彰などの広報活動を行うことで、育成支援と機運醸成の効果を図っている。

6. 今後の対応等

方向性	☒ 拡充	☐ 継続	☐ 縮小	☐ 見直し	☐ 休廃止
今後の対応	健康志向が強まる中、スポーツへの関心が高まっていくことが想定され、様々なニーズに応えられるよう総合型地域スポーツクラブの活動へ引き続き支援を行い、町民が参加したいと思える各スポーツ教室を実施していく。また、部活動の地域展開において、生涯スポーツも新たな選択肢として部活動の受皿になりうることから、中学生年代が参加しやすいメニューなどを検討していく。				

事務事業点検・評価調査

1. 事業名等

事業名	スポーツ環境整備事業	所管課・係	教育文化課 スポーツ振興係
施策体系 [教育振興計画]	第4章 健やかな体と豊かな心を育む教育・スポーツ活動の推進 第3節 スポーツ環境の整備・充実 ①施設の設備 ②施設の管理・運営	予算科目	10 教育費 5 保健体育費 2 体育施設費 1 総合体育施設等管理運営に要する経費 2 多目的交流広場等管理に要する経費

2. 事業の概要

事業目的	利用者が安全に利用できるよう老朽化した施設を整備していく
事業内容	計画的な施設の整備・修繕、利用者のニーズに即した施設の備品の更新

3. 予算額・決算額

予算現額	34,875	決算額	33,203	(単位: 千円 千円未満四捨五入)
光熱水費8751 修繕料2035		各保守点検・管理等委託料13853		

4. 事業の実施状況

町民プール管理監視委託、蛍水運動公園・森ノ宮公園管理委託、体育施設保守管理委託等 本郷西地区・西地区体育館トイレ洋式化修繕工事 熱中症対策用ファン、テニスコートネット等購入
--

5. 事業の評価

評価の視点 (評価項目)		評価	評価の理由
必要性	社会情勢や町民ニーズの変化に対応しているか	☐ 適切に対応している ☒ 概ね対応できている ☐ ほとんど対応できていない	町民プール循環浄化装置修繕、小鳥山スキー場アンヴァーリフト修繕、消防設備修繕等、またテニスコートネットの更新や熱中症対策用ファンの購入により利用者の利便性の向上や安全対策を行った。その他の施設の維持管理について、快適に利用できるよう業者への委託を行った。
効率性	経費に見合った効果が得られているか	☐ 十分に効果が得られている ☒ 概ね効果が得られている ☐ 効果があまり得られていない	老朽化した施設の修繕・更新を行い、利用者の安全性の確保、利便性の向上につながった。
有効性	期待された成果は得られたか	☐ 期待した成果が得られている ☒ 概ね期待した成果が得られている ☐ 期待した成果があまり得られていない	スキー場は積雪量が不足した2月以降に営業中止としたものの1カ月間営業を行い、利用者にウィンタースポーツの活動機会を提供できた。また、総合体育施設は春から秋にかけて野球、ソフトボールを中心とした町民の利用も多く、中学校部活動等を含め幅広い層の利用があった。

6. 今後の対応等

方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 縮小 ☐ 見直し ☐ 休廃止
今後の対応	施設の維持管理も含め、老朽化等に対する対応を適切に行う他、熱中症対策等のスポーツ活動時の事故防止対策に取組み、安全に社会体育施設を利用できるよう努める。

教育委員会事務事業点検・評価報告書（令和 7 年度分）

令和 8 年 9 月

大江町教育委員会 教育文化課

〒990-1163

山形県西村山郡大江町大字本郷丁 373 番地の 1

TEL : 0237-62-2270、3666（代表） FAX : 0237-62-3667